

# 情緒タイプ

- ・ 高度の緊張維持の困難
- ・ 生理的な状態に気分が影響される。圧迫を感じる。
- ・ 飲食に楽しさを求める
- ・ 感情移入と感情興奮性
- ・ 甘い人生観、つまり、期待感

このタイプは自我と外界や他者との切り離しができず、行動・知性タイプに比べると感情や思考が他者に引きずられ易い。共感性が強い。  
また、知性タイプのように、自己を俯瞰し論理で行動を選択したり、行動タイプのように意思で生理や気分をコントロールすることが出来にくい。  
「好き嫌い」や「気が進む・進まない」という生理性から来る感情で行動が決まる。感情と理論は別次元のもので、意思や目的とは単純には結びつかない。  
よって、知性タイプの理論づけや、行動タイプの必要性からは、理解しきれないものがある。情緒タイプには知性タイプの陥る計算違いによる自信喪失はない。  
情緒タイプは失敗に対しても、情緒性によってのみ救われる。

矛盾があろうとなかろうと、まごころ・誠意がそこにある限り一切は善しとなる。そのまごころ・誠意が、往々にして独りよがりであり、相手への押し付けである事にはあまり考慮を払わない。人間の行動基準にまごころと同じく利害得失があることを暗に認めながら、「人は利害得失を基準に動くべきではない」という古風な倫理を信じている。自分を利害の基準ででも動く人間だとは思いたくない自己撞着は、自己の誠意を絶対化し、信頼すべき相手にまごころを一筋に要請する。これは特に情緒タイプの中でも開放タイプ（養・冠帯）に顕著に出やすい。行動的情緒タイプと知性的情緒タイプでその傾向が異なってくる。以下で説明していく。

## 行動的情緒タイプ（冠帯・衰）

意思での方向づけが情緒タイプにしては出来やすい。知性的情緒タイプに比べて機動性が速く、緊張維持もある程度可能で、姿勢は崩れやすくても長持ちする。  
行動の責任は漠然とした運命に帰す。酒量は行動タイプほどではないが、多くて粘り強い。人に対する態度は、警戒心や恐怖心が先走りつつも結局は楽天的に落ち着く。  
衰と比べて冠帯は、さらに楽天的で、警戒心も持続しない。  
感情に対しても、表現的で享受的。超自我は自己を縛るものではなくて、使命感とか運命感として働き、自己の行動を弁護する方向に働く。

## 知性的情緒タイプ（養・墓）

自己の感情を統一づけるベクトル。起動性は遅く、姿勢は多少引き締められていて日常生活における刺激・変化は避ける方向で、酒量も少ない。  
人に対しては安心・信用・信頼を求め、警戒心・恐怖心を捨て去ることができない。行動の責任は自分をそうさせた相手に帰す。自分の道徳を他人にも求める。  
感情移入や感情興奮性を持ちつつも、前者に比べると孤立した態度を取りやすい。期待感が高いほど、猜疑心・拒否の態度が反作用的に強くなる。  
よって、真に協力的な仕事は出来にくく、ワンマンで狭い領域に限られてくる。自己の内界に価値を置く方。超自我に縛られる傾向。

## 開放タイプ・外側（冠帯・養）

話し好き、聴き下手。自己弁解や事情の説明も試みる。自分の気持ち、考えを語るには巧みだが、相手の心理を見る鋭さ、人を見る目には乏しい。  
環境に対して反発性があり自己顕示的。人に対して、単純で率直で生真面目で、相手の事情や心理に対して無頓着の傾向がある。

## 内閉タイプ・内側（衰・墓）

話し下手、聞き上手。人の心理を洞察するのにさして苦労はしないが、自分の心理を語るのは苦手。意多くして言葉にならず、うまく説明できない。  
自分と環境とがぴったり密着しすぎているために自分の心理を抜き出して語れないのかもしれない。よって聴き好き。弁解や言うに言われぬ事情すら言わない。  
謝罪もしない。これが時に反省していない等の誤解を受ける。環境に対して逃避性があり自己韜晦的。人、環境に対して愛明で、不信性を持つのかもしれない。